

平成 15 年度 SGST 第 5 回研究会 議事録

日時 : 平成 15 年 12 月 9 日(火) 15:00~17:15

場所 : 名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 教室

講師 : 宮本 重信氏 (名古屋工業大学共同研究センター 客員教授)

出席者: 安藤(瀧上), 海老澤(名工大), 加藤(瀧上), 亀子(瀧上), 櫛田(帝国建設C), 楠(東海鋼材), 後藤(名工大), 事口(大同工大), 小西(日橋), 清水(信州大), 杉浦(JIP), 館石(名古屋大), 田中(JIP), 土井(JFE), 鳥本(中央C), 長谷部(名工大), 水澤(大同工大), 宮下(JIP), 山田(トピー), 吉田(川田), 渡辺(オリエンタルC), 21名(敬称略)

・名古屋工業大学共同研究センター41 回講演会と共催

1. 名古屋工業大学共同研究センターの概要紹介

- ・センターの組織
- ・最近の産学官関連トピックス
- ・活動内容

2. 定期研究会 (海老澤研究会担当幹事)

講演「太陽熱を地中や潜熱材に蓄熱しての融雪, 冷暖房の実用化」

(名古屋工業大学共同研究センター 客員教授 宮本重信氏)

<内容>

- ・潜熱蓄熱材で太陽熱を蓄えて鋼床版橋の凍結抑制
- ・建物の基礎杭を熱交換杭に兼用利用した地中熱の融雪システム
- ・橋梁の基礎杭を蓄熱に利用した例 新清永橋
- ・舗装・床版・融雪用放熱管との技術の融合によるコスト縮減
- ・基礎杭利用の地中熱空調システム

地中熱を利用した融雪や冷暖房は, その建設コストが高く, 実用化への問題点となっていた. 近年の研究により, 異分野の技術を利用してシステムとしての創意工夫を行えば, そのコストは 1/3~1/6 に縮減されることが明らかになってきた. それらについての研究と実際の施工事例紹介があった.

以上//

平成 15 年度 SGST 第 5 回幹事会 議事録

日時 : 平成 15 年 12 月 9 日(火) 14:00~15:00

場所 : 名古屋工業大学 2 号館 11 階ラウンジ

出席者 : 事口(大同工大), 水澤(大同工大), 清水(信州大), 海老澤(名工大), 安藤(瀧上), 尾関(瀧上), 杉浦(JIP), 加藤(瀧上), 亀子(瀧上), 山田(トピー), 10 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1)第 4 回幹事会議事の説明(加藤議事録担当)

・ H15 年度研究委員会の進め方, 内規の改定, ホームページの改変, CPD について他.

2)ホームページ改変について

・ 2004 年 1 月中旬をめどにホームページ改変

・ 11/19 に各会員へメールにてアンケート調査 (ホームページのメイン名, 内容についての意見) を実施中. 締め切りは 12/20.

3)CPD 申請の件

・ 第 4 回 SGST 研究会を土木学会へ申請し, CPD の認定を受けた(水澤幹事より). 今後も定期研究会は継続して認定申請する.

・ 研究会開催ごとに申請書を提出, 認定をもらう必要がある.

①担当幹事が研究会内容をまとめた書類(A4, 1 枚程度, 講演題目, 講師, 講演内容, キーワード等)を作成→②事務局で申請書類を作成→③代表から土木学会へ申請書類提出→④認定

4)H15 年度活動資料集について

・ 事務局にて原案を作成, 2 月の幹事会で諮る. 内容は, 研究会 6 回(内 1 回は記念シンポジウム)と現場見学会について. ただし, 記念シンポジウムは別冊が出るので, 本資料集には概要のみの記載とする.

・ 印刷業者は 3 社程度で見積り比較して決定. カラーページの採用も検討する.

5)研究委員会の進め方

・ 研究委員会の公募を下記のように行う.

①対象 : 若手委員の研究調査と奨励,

②金額・件数 : 40 万円×2 件,

③条件 : ・研究成果報告書の作成(記録として保存), →内容, 書式は追って検討

・ 定期研究会等での成果報告

・ 学会発表, 論文投稿を推奨 (SGST の助成を明記する)

・ スケジュール

メールにて各委員へ募集(～H16/1/15)→募集結果を幹事会へメールで報告, 意見徴収(～1/25)→研究委員会決定(～1/31)→委員募集(～2/15)→活動開始(H15/3～)

・ 研究委員会テーマの候補(案)

①バリアフリー化に対応した市街地小規模施設の構造提案(安藤代表)

②諸外国の設計基準・解説書等の翻訳(清水研究会担当幹事)

6)次回幹事会・研究委員会

・ 2/24(予定), 担当 水澤研究会担当幹事

・ 本年度研究委員会の報告を行うことをワーキング代表に打診(山田先生, 梶川先生).

以上//